北西教育センター　新春の実践講座

増える不登校 私たちができることは？

～子どもや保護者たちの願い 先生たちの思い～

2023年2月22日(水)

大沼 宗男（小学校講師）

1 いま、子どもたちは･･･

（1）増え続ける不登校

＊小学生　８万人＝1.3%
（７７人に１人）

＊中学生１６万人＝5.0%
（２０人に１人）

〈文科省：2021年度調査〉

▲あくまでも年３０日以上の欠席者数
▲コロナ禍は２０２０年１月から
（一斉休校は３～５月）

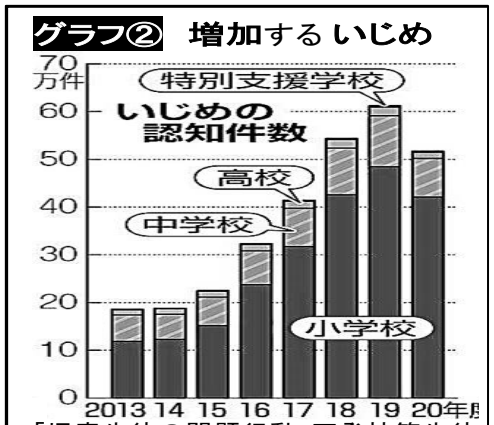
？不登校の増加の原因は、コロナ？

（2）深刻さを増す子どもの「心と体」

① いじめの増加

・１０年前の３倍。
調査上の定義も変わっているとはいえ。

・特に小学校で増えている。



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文科省）

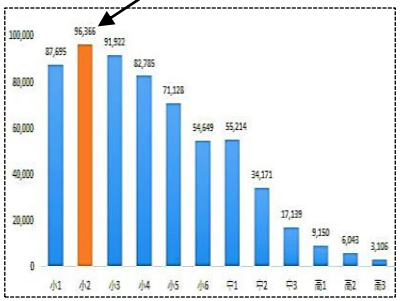
② いじめの低年齢化

学年別いじめ認知件数

2009年 ―― 10年後 ―― 2019年

最多は 中1 の15,906件

最多は 小2 の96,366件



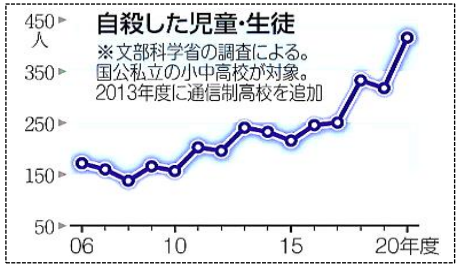
「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文科省）

③ 自殺の大幅な増加――前年度（317人）より31%増

＊過去最多の415人（20年度）

・男子 224人
　女子 191人

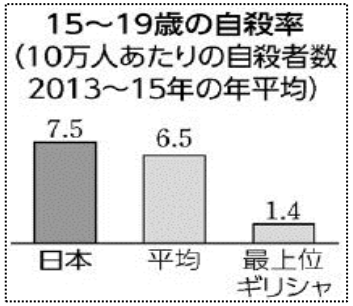
・高 305人　中 103人
　小 7人（特に高が増加）



◆自殺の理由、最多は
「不明」が 52.5%

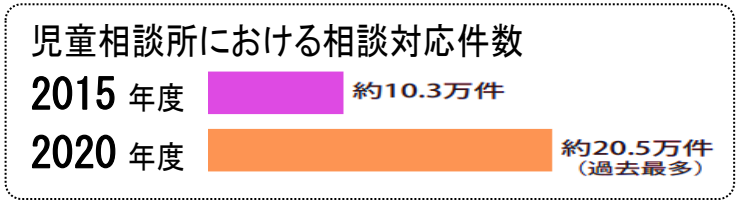
▲２０年度はコロナ禍の影響もあるが、
増加傾向は１０年前から。

▲実態は　世界でも最悪。



（３）深刻さを増す 子どもの日常

① 虐待



② 貧困　７人に１人の

子どもが「相対的貧困※」

※多くの人が享受している
生活水準にない状態。
親子２人が毎月約14万円
以下で暮らす状況。
〈セーブ・ザ・チルドレン〉

ヤングケアラー　家族のケアで家事や介護などの責任を負っている１８歳未満の子

＊中学生の5.7%＝17人に1人

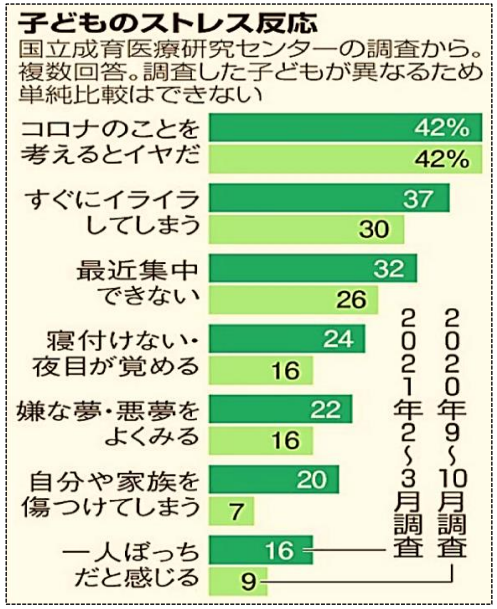
＊高校生の4.1%＝24人に1人

◆「居眠りの子はケアラーかも？」と考えよ。（英国の教員研修で）

（４）子どもたちの心の内は？

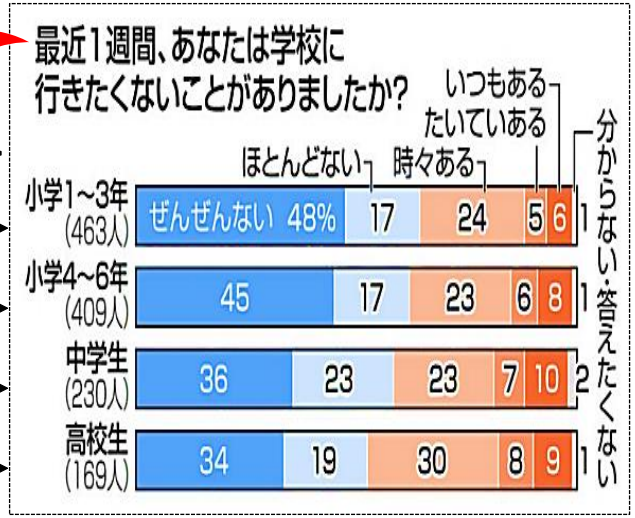
① ストレスを感じている子は７０%にのぼる。

＊その具体例を聞くと→



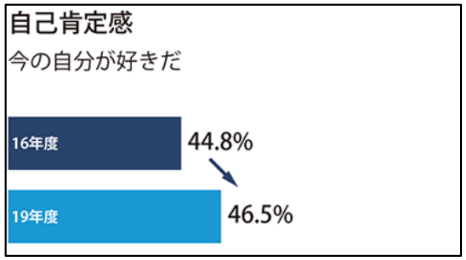
② 「学校に行きたくない」と思う子どもたち

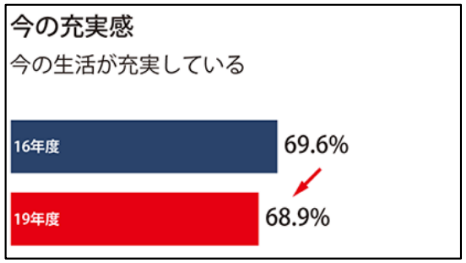
「ある」という子
35%→
37%→
40%→
47%→

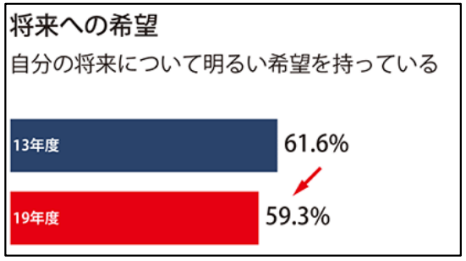


※国立成育医療研究センター「コロナ×こどもアンケート」第６回調査（21/9）報告書

③ 子どもたち… 肯定感、充実感は？ 希望は？



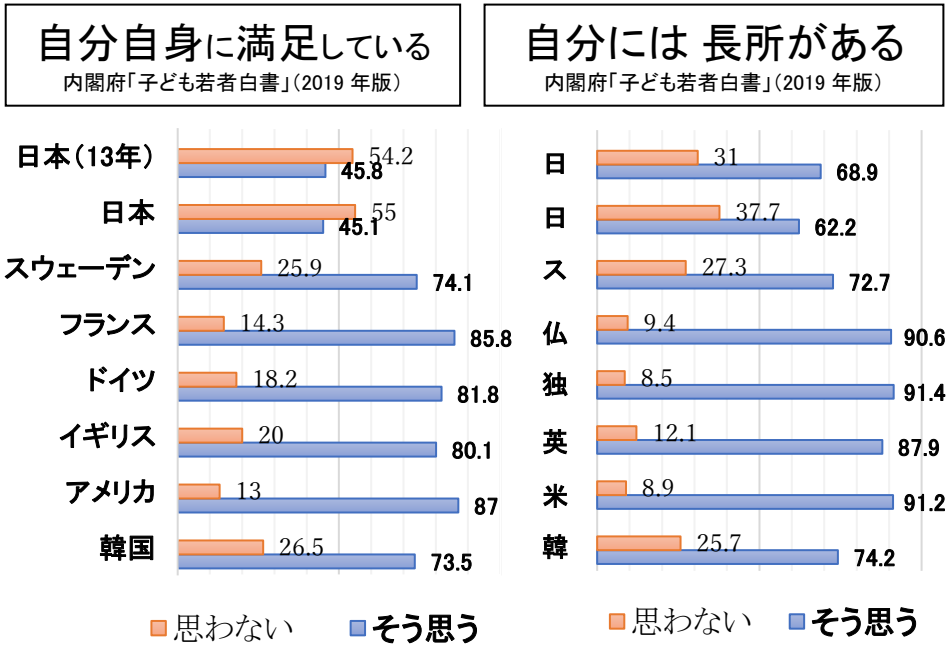




Q「持っている？」
「足りない？」

▼世界の国々の子どもたちと比べてみると・・・？ ⬇

〈子供・若者の意識（出典：内閣府「子供・若者の意識に関する調査」 2021年版〉



■ユニセフ「子どもの幸福度」調査(20年発表)によると、**日本は38か国中**
「身体的健康」では **トップ。**
「スキル」は 友人をつくる等の社会的適応力が低く最下位グループの**27位。**
「精神的幸福度」は高い自殺率や低い自己肯定感等から**37位。**

④ 保健室や相談室での子どもたちの声

～養護教員やSCなどの話から～

- 「怒られてばかりいる教室・授業がイヤ」
- 「授業がつまらない。おもしろくない」
- 「勉強ができる子はイイけど・・・」
- 「人（友だちゃ先生、人の集団）が怖い」
- 「人を気にしてばっかりで、疲れるンだよね」
- 「いつも誰かに見られている感じがして、気になる」
- 「人のことはどうでもいいと思っちゃう」
- 「教室にいることがガマンできない」
- 「登校したくないけど、仕方なく(ムリして)来ている」

⑤ 作品に見る子どもたちの思い

犬の生活　【小2】

犬はいい、気楽で。
学校に行かないし、
あそんでもらえるし、
しゅくだいもない。
さん歩も行ける。
あとは、
きまった時間に
えさがもらえる。
あとは、ねるだけ。
いいなあ。
ぼくも一日でいいから、
犬と同じ生活がしたい。

本当の私がわからへん【小5】

何もかもいや！
母と言い合いになるし、
友達ともうまくいかへんし、
妹にはぶつかるし、
こんな私　いや！
もとの菜未子にもどりたい。
学校で明るくふるまうのは
つかれたよ、先生ー。
このままどうなんねやろー？
本当の菜未子、どれかわからへん。
あーっ。　（一部 略）

自　分　【小6】

いつも自分のことだけを考えて
人のことは考えない
人のことを平気で傷つける
いいところはないと思う
先生は
「いいところは、一人一つはある。」
と言うけれど
ぼくにはないような気がする
いいところは自分には分からない
自分のことだけ考えて
いいところが一つもない
自分がいやになる

ムカつくとき　【中学生】

なんか
私たち生徒は点数で動く
と思っているらしい。
そーゆーのヤダ。
なんかこの間、
「一問やったら十点」
とか言ってて。
だから
私はその問題やらなかった。
身につくって知ってたけど
ムカついたから！

2 子どもたちを苦しめているのは？

（1）「学校環境である」と国連子どもの権利委が指摘（2019年）

「ストレスの多い学校環境（過度に競争的なシステムを含む）から子どもを解放するための措置を強化すること」と、自殺や登校拒否が多いことなど日本の教育の問題点を指摘、適切な対策を求めた。

●教育行政の圧力

＊教育基本法の改悪06(H.18)年 ⟶

⬇ 子どもたちは

◆評価・比較・競争と、序列・格差付けに追われる日々。

◆規律・規則遵守と同調を求められ、「自己責任」の重荷を背負う。

基本法改悪推進派のコメント

目標達成型教育が打ち出された。教育目標には「豊かな情操や道徳心」「公共の精神」「伝統と文化の尊重」「愛国心」などの徳目が達成すべき目標と義務づけられた。文科省、教育委員会、**学校は目標の達成に向けた責任を負う**こととなった。

●社会的な影響

◆日々、暗いニュース（〝ウソ、ゴマカシ、弱い者イジメ〟…）が流れていることなどもあって、**人間や社会・政治への不信感が増。**

◆コロナ禍の苦痛、遊びや交友など日常生活の制約、学校や園の行事・諸活動の制約・制限で、**満足感・達成感が減。**

●幼児期の教育方針の改悪（2017年改訂、翌年施行）

（「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「こども園教育・保育要領」）

＊位置づけ――学校教育のはじまり

＊目　　的――義務教育及びその後の教育の基礎を培う

＊目　　標――育ってほしい「１０の姿」（※）

＊目標の視点――何が**できる**ようになるか

⬆ **“できる子”を育てる**ことが「成果」

＊「成果」を測るとは、幼児の育ちを「評価」する**ことである**

⬆ 幼稚園・保育園などに強制。

※ 幼児期の終わりまでに育ってほしい 「１０の姿」

❶健康な心と体 ❷自立心 ❸協同性 ❹道徳性・規範意識の芽生え
❺社会生活との関わり ❻思考力の芽生え ❼自然との関わり・生命尊重
❽量・図形、文字等への関心・感覚 ❾言葉による伝え合い ❿豊かな感性と表現

↑ コレとは対照的だったのが ↓

従来の 幼稚園教育要領

「幼児期にふさわしい生活と遊びを充実させる」
「幼児期らしい生活と遊びを通しての発達を促す」

●しかし今、子どもたちは――

◆幼児期に**必要な体験**を十二分に積みながら、
心身を成長・発達させることができないまま小学校に…。

◆「力」が育っていなければ･･･
――適切な(その場に応じた)行動も意思表示もできない。

◆できなかったことを「**とり戻そう**」とするのが人間だから･･･
――赤ちゃん返りのような言動や、反発・反抗しながらの甘えを。

そういう子に ***「ダメ！」「やめなさい！」*** と
キビシク怒るだけ、叱るだけでは･･･？？？

（2）子ども自身の胸の内

Q「心や体がこんなとき、どうしたら
いいと思いますか？」

A それが**友だち**なら
「助けが必要」＝94%

心が苦しく、体も辛い。
食欲もなく、眠れない。
何もやる気がしない。

A それが**自分**だったら･･･？ ――回答は小学4年生以上

「誰かに相談する」＝60%
「相談しない」＝40%

相談しない 理由

- **「気持ちを 表現できない」＝66%**
- **「真剣に聞いてもらえない」＝21 %**

国立成育医療研究センター 第7回調査(21/12)

「しっかり説明を」
「ハッキリ言おうョ」

◎「寄りそう」ということは……
「聞くから言ってごらん」ではなく、**相手の「心の中」を思いやって…。**

3 私たちができることは？

※「登校拒否・登校しぶり」の子は、問題を抱えた特別な子なのか？

（1）子どもたちの本音は―

ある NPO 法人によるアンケート(22/8 対象13～25歳、回答307人)

Q「学校に行きづらいと感じたことや、
行かなかったことはあるか？」

A **「はい」が 87%**

Q「きっかけは？」(複数回答可)

A 「友だちのこと」―**46%** 141 人
「勉強のこと」――**45%** 137 人
「病気や体調」――**38%** 118 人
「先生のこと」――**37%** 115 人

㊟この問いはあくまでも「きっかけ」です。深い理由や背景ではありません。

㊟文科省による学校調査では、原因・理由として「家庭や本人の問題」が多く、「教師(との関係)」は少ないという**ズレ**があります。

（2）子どもと どのように―

① 子どもの思いは…

【ネット、TVから】 なんで行けなくなったのか、思い返しても、**理由は説明できない**。学校に行くと苦しく感じていたけど…。

【小学生】学校にいるとね、言いたいことが言えなかったり、涙が出ちゃったりして、なんだか、**ぼくがぼくでないようになっちゃう**んだ。
疲れちゃったから、学校休んでもいいかな？
「なやんでゆれて」（不登校を考える東京の会

【（1）のアンケートから】◆「学校に行きたくない」という感情を**理解されなくて辛かった**。「絶対に何かある」と**決めつけられ詰問される**のがいやだった。**（18歳）**

◆**頭では**行かければと思っていても、**心と身体がいうことをきかなくて**、やるせない気持ちだった。**（15歳）**

子どもの思い

【『子どものつぶやき』から】
学校に行けない子が、家でも「学校に行け」って言われたら、**家にもどこにも居場所がなくなる**。どうしたらいいんだ。

【中学生】 大人達に「受け入れて」とはいわない。ただ、うちの**話を聞いてくれれば良い**。相づちを打ってくれればいい。それだけだよ。
意見を押しつけたり、**表面だけをどうにかするんじゃなくて、中身を、根本を**見てほしい。

【高校生】どれだけのプレッシャーになるか、不登校になってみないと**大人はわかってくれない**でしょう。**それが一番辛かった**です。
できない自分に腹が立って、**自分を追い込んで**…。思い返すだけで辛いです。
大人にはもっと**子供の気持ちになって**接してほしいです。

② 具体的な対応は･･･

1）指導やアドバイスは後回しにする
※子どもが求めてきたときに応える（後述）

2）「最も悩み苦しんでいるのは、この子だ」と受けとめる
※保護者も教師も心配するが、
子どもの胸中の辛さ・不安・怖さ・
自信喪失･･･は、その比に非ず。

見る目を“逆向き”に
＊「困った子」は、困っている子。
＊「気になる子」は、「気にかけてほしい」と思っている子。

3）**気持ち・本音を聴く**←「説明させる」「理由を聞く」のではなく。
⇑
⇑
⇑
どのような内容・言い方でも、
うまく話せなかったとしても、**「君の気持ちは分かる」**と。

4）**要望・頼みを聴く**←「言わせる」ではなく。
↑
・どのようにしたいのか？
・どうしてほしいのか？
・してほしくないのは どんなことか？･･･等々

5）**提案（※）を押しつけない**←一方的な“約束”は、子どもを苦しめるだけ。
⇑ ※・子どもにしてほしいことや、させたいこと、
⇑ ・教師が「こうしたい」と思っていること。
＊「君が『**イヤだ・できない**』と思うなら、**そう言ってね**」と。

☒「学習課題はちゃんとやっておこう」
「家でも規則正しい生活をしよう」
「電話（訪問）をしたら話して（会って）ね」･･････等々

●初めから無理な“約束”だったとしても、**子どもは――**
「約束を守れない**自分はダメな子**だ。自分は先生に信用してもらえない…」と思い、さらに落ち込むことに。

6）「仲立ち」を確かめる(決める)←必要な場合、子どもの同意を得て。
⇑
・「こういうことは、〇〇に伝える(渡す)」で、どう？
・「先生に伝え(頼み)たいことは、どんなことでも〇〇に」で、どう？

7）いわゆる〝不登校・休みがち〟の子が登校したときは――
⇑　　⬆ その子の胸中を最優先して接する。

ⓐ「よく来たね。うれしいわ！」
ⓑ「さぁ、いっしょに教室へ！」
ⓒ「〇〇さんが来たよ！ みんなで楽しく過ごそう！」
ⓓ「サヨナラ！また明日ね。待ってるよ！」

＊教師の気持ちはそうでしょうが…子どもにとっては***???***

? ⓐ～ⓓのような言葉をかけられた
子どもはどのように感じ、
どのように思うでしょう？

※ 児童精神科医の話　子どもは、悩みごとや苦しいことがあっても、ギリギリまで**「普通」を保とう**とします。けれど、やがて「眠れない」「食べられない」などの“症状”を示すようになります。
そして、子どもが**「実は、学校が……」と言うのは、症状が重くなってから**なのです。
だから、ギリギリになる前に**「学校には行きたくない」**と言ってくれたら、それは**「ありがたい」**と受けとめることです。

◎ 何よりも大切なのは
子どもとの信頼関係をつくること

【不登校を経験した青年】「ありのままを受け入れてくれる人が**一人でも**できれば、気持ちが楽になり、**何かしたいっていう気持ち**が出てくる。」

4 教室では どのように･･･

※不登校や休みがちの子、教室に入れない子…がいるとき、クラスの子どもたちとどのように――

（1）「誰も みな 同じ」と ←教師としての〈姿勢〉

①「このクラスの一人ひとりを大切にします！」

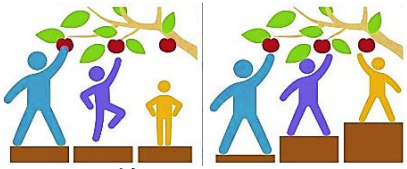
「教室に来ている子も、来ていない（来られない）子も、みんな同じ仲間。私はみなさん全員の先生です！」

子どもたちにハッキリと話します。「**いつ**でも、**どこ**でも、**誰と**でも、先生は同じ気持ちで接します」と。
「登校・不登校」は関係ありません。
「学校に来ないのは、よくないこと」という見方をなくします。まず教師から、そして子どもたちからも。

②「三者三葉･十人十色」なら「三十人 三十葉(色)」

「平等・公平」の落とし穴＝「一律・画一」***に要注意！***

●個々人の特性を考慮せずに
「みんな同じように！」***……は？***



●いわゆる不登校や、休みがちの子がいる学級の子どもたちに――
・「休みたい時は誰でもあるのにねぇ…」
・「君たちは頑張って登校しているのにねぇ…」***……は？***

◎体のケガでも、心のキズでも――
その子・その人にかける言葉は同じ*ハズ！*
「あなたの 体（心）の具合（状態）に合わせてネ。
無理しなくていいの。あせらなくていいんだよ。」

③ その子が求めることに 応える

●不登校の子も、登校している子も――
　心の中には、それぞれの悩みや困りごとや願い…が。
　　＊それを受けとめ、その子が求めることに応える。
　　　（※受けとめたうえで、できないことは「できない」と）

例１「家に来てくれてイイよ…」（小５・男子）
　＊子どもの返事に応え、毎週、専科の時間に訪問。
　　・子どもに合わせて話したり、書いたり…。

例２「ギターを教えて…」（小６・女子）
　＊自由作文『なんでも書こう』の「希望」に応えて。
　　・家庭を訪問し、一緒に楽しみながら…。

→その様子を教室で子どもたちに（話や通信で）

「なんでも書こう」について
＊子どもの本音や担任の知らないことを聴く。

◆書いてもヨシ！書かなくてもヨシ！（書いてくれ
◆うれしいこと、困ったこと、イヤなこと……
　どんなことでもＯＫ！（人の悪口を書く人はいな
◆先生に言いたいこともＯＫ！（全部その通りには…

なんでも書こう

題

名前

おいそがしのにすいませんが　こんど
ギターのひきかた、つまりコードという物を
教えてください

→学校を休みがちで、会話も少ない子です。２学期のある日、「ギター を教えて」と書いてくれました。

←こんな声も
（参考までに）

よく○○さんにいじめられています。
やめていってもきいてくれません。

最近の算数は超意味不明だし、
全々分からない。テストやったら

④ 欠席していても、クラスの…

●すべての子たちと同じようにする。
　・出欠確認　・座席　・班やグループ…など
　　※係やクラブなどの所属は本人の希望を聞いて。

●みんなの話題の中に〝自然に〟入れる。
　・「○○さんならどうする（言う・考える…）かなあ？」
　・「昨日、○○さんに会ったよ。それでネ…」

⑤ 登校していても…

●〝特別扱い〟はしない。ほかの子たちと同じように――
　・「こうしてほしい」に応えるのは、誰に対しても同じ。
　　※「保健室に行きたい」「図工の授業には出たい」など。
　・子どもたちが自然に交わっている時は、見守る(参加する)。

（２）クラスの子どもたちに ←「良かれ」が「良い」とは…

① 役割を与えて“活動させる”ことは しない

●手紙や配布物を家庭に届ける　●朝、迎えに行く
●登校してきたときに担当する　●一緒に下校する…など
　＊本人（休んでいる子）と級友の双方が望んでいるときは、
　　自主的な行動として。

② みんなで手紙を書く(届ける)ことは しない

●「全員が書いて、クラス全体で励まそう」
●「『会いたいね』『待ってるよ』と伝えよう」
　※「無理に書かされるのは…」と感じる子も…。
　＊個人が自分の意思で書き、本人もそれを待っているときは、
　　尊重する。　　（↑うれしいことですね！）

5 子どものための協力の輪を！

（1）親・保護者と――

■親は、驚き、心配し、困り、
悩み、迷い、苦しみ…。

「とにかく学校へ！」
「もっとがんばれ！」
と言っても、
励ましには…??

① まず自分自身に（言い聞かせる？）

- 「親の胸中（の心配や辛さ等々）は、教師の比ではない」ということを。
- 「子どもは、『自分のせいで親が…』と心を痛め、苦しんでいる」ということを。

②「子どもの気持ちを第一にして…」と

- 「登校、勉強、“規則的な”生活…を押し付けないで…」
- 「子どものいいところ、うれしいことを伝え合いましょう」

③ 要望を聞いて、確かめ合う

親との間で

- 子どもとの対応の仕方
- 登校時や下校時の対応
- 学校にいる時の対応
- 連絡や相談の方法
- 届け物の扱い方…等々

子どもとの間で←可能なら

- 自分(教員)との接し方
- 友だちとの接し方・交わり方
- 教師からの伝え方と
  その返事の受け取り方
- 要望の受け取り方と
  返事の伝え方……等々

【親・保護者】 子どもが不登校になると、先生は「子どもの支援を」と考えるだろうが、**親を支えることこそ大切**だということを分かってほしい。親が焦らずに子どもと接するようになれることが、**子どもにとっては何よりのプラス**になります。それが前に歩みだす力になります。

（2）仲間（教職員）と――

◎教員、養護教員、SC、支援員などの協力が大事

⇧ それぞれ**何ができるか―の前に大切にしたいこと**

① 子どもが求めているのは何か―を共有すること

＊子どもが抱えている心配や不安や悩みはさまざま。

＊話し（頼み）たいことは、相手によって違う（下記は、あくまでも例）

- 学習や進路、級友のこと→→→教員(担任)
- 教室(学級)、授業、担任のこと→→養護教員
- 先生のこと、心の悩み→→→SC
- 学校のこと、普段の生活のこと→支援学級の教員・支援員

◎子どもの「思い」を教職員間で共有し、**それぞれの立場・役割を生かした対応・接し方**を考える。

教職員・仲間の声

【支援教室教員】 担任と**のつながりを持ちたい**です。「クラスの友だちと～をしたら楽しかった」など、**担任が聞いたらうれしい話を**、もっと伝えようと思います。

「私だからできることは何だろう」と考えています。

【養護教員】 保健室は評価しないところなので、**子どもたちは本音を話してくれます**。本音が言えて、少しでもホッとできる居場所をつくっていきたいです。

【ＳＣ】 毎月末、相談内容を報告します。「不登校」「いじめ」「友人問題」「情緒不安定」「心身の健康」「学業・進学」等々２０項目ほどあります。

「不登校」の子でも、親子関係や友だち関係、生活上の問題など、**悩みはさまざま**です。

ところが、欠席日数が一定数を超えると、心身の健康上のどんな課題を持っていても、**「不登校」の枠に括られて**しまいます。

それが、その生徒の抱えている**問題や課題を見えにくくしてしまう**と思います。

6 最後に　（1）大切にしたいこと

①「教育と労働の条件・環境の徹底改善を」の声を！

② 教師として**「子どもにどう向き合うか」**を考えるときに…

1）子どもには**子ども時代を子どもらしく生きる権利**

＊ **子どもは、〝将来のため〟に今を生きているのではありません。子ども(時代)だからこそできることを！その積み重ねが、成長するということ。**

2）**「じゃんじゃんまちがえよう」**

◎受け持った学級では→

じゃんじゃんまちがえよう
人間だからまちがえる
まちがえたら考える
考えるから かしこくなる
だから
じゃんじゃんまちがえよう

3）子どもを褒める(認める)のは**「*Being*」**

◎評価の３基準：① Doing（行為・行動）　② Having（役目・属性）　③ Being（存在）

※①②で済ませてしまいがち。③でこそ**力と自信に！**

4）困っている子を大切にすることは、**すべての子ども**を大切にするということ。

＊**心配、不安、悩み…は誰もが持っている。**

5）子どもの歩みは **行きつ 戻りつ、螺旋階段。**

＊**あ**わてず、**あ**せらず、**あ**きらめず。

6）担当(担任)するのは**わずか１～２年**。教育は促成栽培にあらず、デス。

＊子どもたちに**「信頼」**を注ぎながら、

「早く芽を出せ」ではなく、**「深く根を張れ」**で。

（2）子どもが大人(親・教師…)に求めているのは

①「叱咤・激励」より**「理解と支え」**

【高校生】 不登校になった子供に**学校へ行けと強要しない**で、じっくりと**話を聞いてあげてください**。初めは無理でも、そうしていれば、**子供の自信になる**はずです。

「**怠けている**」とか「**みっともない**」とか「**失敗作だ**」とか言われて、**自分に自信がもてるわけがない**でしょう。

【不登校経験の青年】 ありのままを受け入れてくれる人が**一人でも**できれば、気持ちが楽になり、何かしたいっていう気持ちが出てくる。

②「僕たちよりも…」

【１５歳】 僕たちは**不登校というかたちで、自分の辛さを表現できている。**

同じ辛さをかかえながら、**表現できずに学校に我慢して通っている子どもたち**がいっぱいいる。**その子たちのことを気にかけてあげてください。**　（子どもサミットでの発言）

③ 子どもたちが願う **「理想の小学校」ベスト3**

5･6 年生200人の自由記述に書かれた言葉の集計

仲よく・楽しく・笑 顔

（6 割）　（4 割）　（4 割）